



大阪ニットファッション工業協同組合

継続できる! 世代を超えた組織づくりを目指して!

新理事長のご挨拶

大阪ニットファッション工業協同組合 理事長 荒井 敏博



令和6年5月20日の第71期通常総会におきまして、新理事長に就任いたしました、安泰ニットの荒井敏博と申します。

竹内前理事長のもとで2期副理事長として、理事長を補佐してまいりましたが、今般、歴史ある大阪ニットファッション工業協同組合の理事長に就任することとなりました。

業界を取り巻きます環境は、コロナの影響はなくなりつつありますが、長びく国内消費の低迷、円安の安値安定、電力費、運送費などの諸物価の高騰など国内メーカーにとりまして、致命的な負担増がのしかかってきております。

衣料品小売(インターネット含む)につきましては、昨年以来の電力費、今春の食品、運送料の値上げ等値上げの可能な業界とは異なり、輸入商品供給過剰により最終消費者に対して値上げできない状況であり川上、川中のメーカーのコストアップ分の川下への価格転嫁は一部にとどまっており、売上が伸びない中でのコストアップは事業継続にも赤信号がともる事態ではないでしょうか。

円安の進行でニット衣料の輸入枚数が減るという構造ではなく、依然として値引き、安値での競争が進行しており、繊維業界はデフレからの脱出ができていない状況です。

最近、SNSで話題になっているネット販売業者「SHEIN」や「TEMU」は、その低価格戦略により大きな注目を集めています。しかし、このような価格破壊的な商品提供は、競争の公平性に関して懸念を引き起こしています。

アメリカやヨーロッパなどでは規制の動きも認められますが、

日本ではこの種の規制へのハードルは高く無防備の状態です。

日中韓FTAなどの交渉も行われていますが、本来これらの自由貿易協定は、相手国の誠実な約束の履行を前提にしており、国の方針としての当方の主張の弱さに暗澹たる思いであります。根本的には、ニットの製品輸入浸透率2023年のニット工業組合連合会のデータによる98.5%(枚数ベース)ここまで放置してきた我々の責任なしとは申しませんが、経済安全保障の観点からも、自国調達比率が大幅に下回っているとの判断から、幾分かの国別輸入制限措置も必要かと思える程であります。

もう、35年以前になりますか? WTOが設立される以前の1987年に韓国の横編ニット製品のダンピングに対して、日本ニット工連が日本繊維産業連盟(繊維連)の援助の元にGATT協定違反としてアンチダンピング提訴して交渉の結果、韓国から自主規制を勝ち取ったことがありましたが、今回の相手国は輸出企業の任意の調査もできないことは明白であり、日本国政府に対して国内メーカーの廃業淘汰を避けるための方策を考慮していただけるように、国内各地のニット工業組合との連携活動が必要ではないか? と思うところであります。

何分、就任早々で、浅学非才ではありますが、業界組合のために微力ながら、できうる限りの努力を傾注する所存でございますので、組合員各位のさらなる、ご支援ご協力をお願いして、就任のご挨拶といたします。

令和6年度 第71期 理事会・通常総会 開催

令和6年5月20日 新大阪のニューオーサカホテルで令和6年度 第71期「理事会・通常総会」が開催。定足数の報告により、「総会」成立を確認。

竹内理事長が議長に選任され、第1号議案「令和5年度 事業報告 及び収尾報告」・第2号議案「令和5年度 組合員異動」・第3号議案「令和6年度 事業計画策定と収支予算」の審議が円滑に進められ、各議案の採決が取られた。第4号議案「理事・監事任期満了に伴う改選」の審議においては、竹内陽治理事長の退任に伴い、荒井敏博：新理事長が承認可決

されました。さらに、平松良英氏が、新副理事長に加わり、新役員体制でのスタートが切られました。

●令和6年/7年度 役員氏名

役 職	氏 名	会社名
理 事 長	荒井 敏博	安泰ニット株式会社
副理事長	辻 昌延	株式会社チャージ
副理事長	竹内 陽治	株式会社ハクタカ
副理事長	平松 良英	平松工業株式会社

副理事長就任のご挨拶

平松工業株式会社 代表取締役会長 平松 良英

このたび、西田副理事長の後任として、通常総会のご推挙により副理事長に就任いたしました、平松工業株式会社の平松良英と申します。

長きに渡り、名ばかり理事に名を連ねられておりましたが、組合事務局より組合員の減少他、組合運営の現状を聞き大変反省しております。申し訳ございませんでした。浅学・非才ではありますが、新理事長のお手伝いが出来ればと思っております。皆様方のご指導、ご支援を心からお願い申し上げます。

私事で恐縮ですが、当組合の前身である大阪メリヤス調整協同組合設立された昭和28年、私の父が福島区にてメリヤス肌

着の縫製で創業しました。最盛期には和歌山県・三重県・徳島県に自社工場6カ所を有し、昭和37年会社設立から昭和61年の24年間で国内生産累計1億枚を達成することが出来ましたが、その1年前のプラザ合意により急激に円高が進行し、瞬間に輸入製品が市場を専有しました。私の力不足で現在は徳島新浜工場のための稼働ですが、平松工業の社名を残せるよう頑張っておりますのでよろしくお願い申しあげ、就任のご挨拶といたします。



北大阪急行延伸線が都心を直結で結ぶ利便性

大阪ニットファッション工業協同組合 副理事長 竹内 陽治

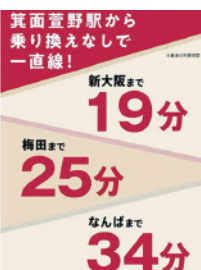
箕面萱野駅と箕面船場阪大前駅の延伸開業による地域への効果は多岐にわたります。まず、大阪中心部へのアクセスが飛躍的に向上することで、人材の流動性が高まり、繊維業界を含む地元の中小企業にとっては採用や取引の機会が増えることが期待されます。

また、新駅周辺には大阪大学や文化芸能劇場があり、今後は

ヘルスケア拠点、イノベーション拠点としての機能も期待されています。大学の存在は若年層の増加を促し、新たな消費者層や活力をもたらします。

さらに、イノベーション拠点の開設は、繊維業界における新技術や新製品の開発を促進し、競争力の強化につながる可能性があります。加えて、市内の中心部や観光地への二次交通の整備によって、観光客やビジネスパーソンの移動が容易になり、地域の魅力がさらに高まります。

総じて、新駅の開業は、繊維業界を含む地元企業にとってビジネスチャンスを広げるとともに、地域全体の経済発展と生活の質の向上に大きく寄与することでしょう。



「通常総会」終了後に同会場で「講演会」を開催。大阪への想いをあらたに深めました

テーマ「知っているようで知らない 大阪物語」

メディアス シギシマ 主宰
中積 義政

小生もこの組合を去ってから年数も経ちますが、皆さんに温かく迎えられ有意義な講演会だったと自負しています。テーマは上記の通りですが、会員の皆様の殆どが大阪でお仕事、お住まい、関連の方々も含めて大阪に関わりのある方ばかりですが、大阪の歴史、地理、文化、産業、生活など余りにも知らない事が多すぎます。

歴史的にも地理的にも、大阪の強い部分や弱い部分も把握し、地元愛(大阪愛)を育て、不断から好奇心の塊で、あらゆる市場の動向などを観察し挑戦する心構えが必要です。半世紀前から政治も経済も大阪中心の大企業も本拠地を東京に移し下落

衰退の一方ですが、これから観光と言うのが繁栄の一つのバロメーターです。その点で大阪は1時間に6カ所の世界遺産を巡る事ができる世界一の観光都市であり(姫路城・京都・奈良・紀伊山地霊場・古市、百舌鳥古墳群など)それを商売に結びつけるのも大切です。

今、大阪産業局が募集しています「大阪製ブランド認定製品」等にもより一層の工夫を重ねながら応募するの一つの方法です。



大阪ニット会報

〈令和6年7月発行 定価500円〉

発行／大阪ニットファッション工業協同組合
〒530-0045 大阪市北区西天満3-4-4 イワイビル303
電話 (06)6364-6002 FAX (06)6364-4435
E-mail os-knit@tb3.so-net.ne.jp
編集／大阪ニットファッション工業協同組合 会報編集委員会